

三鷹市観光・文化芸術資源を活用したアート&ヘルスツーリズム
～大沢編 対話型鑑賞による共創モデルの実践～

1 取組の目的・全体像

(1) 目的

- ・市民のゆるやかなネットワークの形成、さらなる推進と継続。
- ・マチコエ芸術グループの政策提言*1 に掲げた三鷹市オリジナルのアートカード作成を推進するためにワークショップを開催し、三鷹市内の観光、文化芸術における関心を深める。
- ・参加者自らが主体的にツアーの担い手となることで、実践的な研修およびモデルコースを作成する。

<狙い：キャッチフレーズ>

「三鷹」をめざして「人」がくる。同じものを観る体験を共にする
そして「人」と対話して帰る。「三鷹」と「人」、「アート」と「人」、「人」と「人」
三鷹の芸術文化・観光資源を繋げ地域振興や健康に貢献するコミュニティを創る

【注釈】

*1 政策提言の抜粋（教育・福祉・ビジネスに必須となっている）

“芸術を介し、多様なコミュニケーションを育む”まち三鷹にするために以下の3つの政策提言を提出済み。

- ① VTS (Visual Thinking Strategies : 視覚的思考方略、対話型絵画鑑賞) や SAV (Social Art View : 目の不自由な方と共に心の目でみる対話型絵画鑑賞) ワークショップの実施
- ② 三鷹 アートカードの制作
- ③ (仮) 三鷹対話型鑑賞ファシリテーター100人養成事業の企画・実施

(2) 全体像

講義と撮影ツアーによるワークショップで市民協働のアイデアを盛り込み、新プランを開発した。そして、主催者と市民のアート&ヘルスツーリズムとアートカード撮影会そして対話型鑑賞の実施でアートコミュニティの形成を行う。



案内のパンフレット



野外彫刻で対話型鑑賞



三鷹から調布飛行場をのぞむ



三鷹の水車

(3) DAY1

対話型鑑賞、アートカードワークショップ、アート&ヘルスツーリズム（大沢編）のコースを計画した。

アートとアートカードの境目にあるコトなどの問いで対話した。

■内容

日 時：2023年11月19日(日)10時30分～16時

場所等：三鷹ネットワーク大学にて講義とワークショップ

参加者：10名

(4) DAY2

大沢の里近辺を歩き、アートカード用写真撮影を行った。

対話型鑑賞とふりかえりを大沢の里集会所にて行った。

■概要

日 時：2023年12月3日(日)9時30分～16時30分

場所等：三鷹駅南口集合～集会所～大沢古民家～しんぐるま～掩体壕～自由昼食
～野川公園～キウイ即売所～竜源寺～大沢住宅集会場～三鷹駅解散

参加者：10名（近隣住民の途中参加2名を含む）

2 取組のポイント

(1) 従来活動・知見をベースにバージョン up し計画策定

2022年に実施した「ソーシャルアートビュー×ヘルスツーリズム」の革新的な取組や、マチコエ芸術グループでのワークショップでの活動・知見をふまえて進めた。

(2) 昨年度の参加者の声を踏まえコース設計

昨年度も同様の取組を行い、参加者からいただいた声を踏まえてコース設計を行った。今回の参加者からは、

「自ら裏側のツアー構築に携わってみたい」「三鷹駅周辺以外の地域を取り入れたい」「マチコエ芸術グループで提案した政策提言を具体的に実践にすすめていきたい」との声をいただいた。

(3) 目的地である三鷹「大沢の里」への旅

。DAY1で初学者を前提に対話型鑑賞、アートカード、ヘルスツーリズム、大沢地区の紹介講義を事前に行った。

- ・スタッフ側で一方向的にコースを選定するのではなく、参加者と協働で企画していった。DAY2では安全のためボランティア保険に加入。事前にコースの安全性、トイレの場所、集会所での投影会による対話型鑑賞会ができるかなど、入念に下見を行い準備した。

(4) 共有の体験

- ・初めての参加者がコミュニケーションを取りやすいように対話を重視した。鑑賞することの意味は歴史的背景をよく知っていることや作家の意図を言いあてることではなく、自分の視点でモノを良くみて思考を巡らせることが大切だということを重視、VTSやSAVのワークショップで体感してもらった。

- ・ 1日の歩数 8000 歩を目標とし、アプリで測定しクリアした。
- ・ 他者との交流やコミュニケーションを通じて、新しいアイデアや視点を得るための機会を得た。
- ・ 隣の人とおしゃべりができる「にこにこペース」で無理のない速度でウォーキングを体感してもらった。

(5) アートと人々の関係

- ・ 「アート」と「人」の組み合わせ。芸術や文化を通じて感動やインスピレーションを共有し、人々を結びつける力が強くなる。
- ・ DAY1 でアートとアートで無いモノの境目は何か？、一般的な写真とアートカードで足りうる写真の違いは何か？などを対話型絵画鑑賞講義とグループ学習の中で“答えのない問い”ではあるが共通の見解を創っていき、DAY2 での撮影ツアーを有意義なモノにしていった。

(6) 大切なチャンスを見逃さない

- ・ 各種の関係（三鷹と人、アートと人、人と人）において「大切なチャンス」を見逃さない。これは人との繋がりや経験を大切にし、進んで新しいものを受け入れる態度につながっていった。
- ・ DAY2 の大沢地区で撮影した写真を三鷹まちづくりフォトコンテストへ応募。三鷹市他関連事業の紹介の場となった。
- ・ 前提知識として必要な VTS (Visual Thinking Strategies : 視覚的思考方略＝対話による絵画鑑賞) や、SAV (Social Art View : 目の不自由な方と共に心の目でみる対話型絵画鑑賞) のこと、そしてアートカードの効能や遊び方を理解していただくため、民学産公協働研究事業の三鷹アートコミュニケーター100 人養成事業との連動を企画し、応用編としての企画をこころがけた。
- ・ DAY2 の当日に、情報を入手していなかった大沢の里を通過する自転車ロードレースが開催されていて、バス運行がストップされていた。スタッフはタクシー移動することを余儀なくされたが、アートカード写真素材として記録した。

3 取組の成果

三鷹市の観光資源を学び、どのようなアートカードが三鷹市オリジナルアートカードとしてふさわしいか、対話型鑑賞・ヘルスツーリズムワークショップと大沢地区での実践を通して自ら体験するアート&ヘルスツーリズムに関心のある担い手候補を育成した。

また DAY2 では、運動目標 8000 歩、三鷹観光資源を通したアート&ヘルスツーリズムの要素をクリアした大沢地区のモデルコースの一例を参加者協働で作成し、アートカード撮影、対話型鑑賞の実践を行い、参加者同士の交流を深めた。

(1) DAY1 アンケートより抜粋

- ・ どのようなカードがアートカードとしてふさわしいのか、難しかったが、一般写真とアートカード写真の違いを対話型鑑賞スタイルの対話のなかで深めることが出来た。

- ・ヘルスツーリズムの考え方を初めて知ることが出来た。運動・栄養・休養の基準など。

(2) DAY 2 振り返りコメントより抜粋

- ・三鷹にキウイの即売所もあり、これほど自然がたくさんあったことに感心した。
- ・それほど疲れず、天気にも恵まれ、隣の人と話をできる、にこにこペースの速度で歩き会話も楽しめた。
- ・人によって写真の撮り方や視点が違う。その後ふりかえりで対話型鑑賞を行う中で、なにか物語が生まれそうな写真の方がアートカードに向くのではないか？と感じた。
- ・ボランティアガイドの方が水車の詳細の解説をしていただき、歴史がよくわかった。

4 次年度以降の取組について

- ・2回目の開催のため、三鷹の観光地として「推し」の大沢地区を選定してコースプランニングを考えてもらった。自然豊かなコースで、参加者からは「楽しかった」と好評であった。
- ・実施時期が冬の繁忙期に重なったため、時期と告知方法は再考の必要がある。
- ・三鷹地域探求や美術館での開催にあわせて、今後は実施を検討していきたい。
- ・食事場所および休憩場所が少ない印象を受けた。今後は業者等との提携、コミットも考慮していきたい。
- ・コースプランニング、アートカード写真撮影を通して、参加者による共創での取り組みを実践することが出来た。
- ・今回は大沢地区での三鷹の観光資源を利用した対話型鑑賞およびアートカード撮影を行ったが、同じようなモデルで、未実施の地域に展開が可能である。



大沢住宅集会場で当日参加者が撮影したアートカード写真による対話型鑑賞と振り返りの様子

<取組の報告を受けた選考委員からの主な意見（助言等）>

- ・対話型鑑賞の実践者やファシリテーターになる方の人材育成など、イベントに参加した方々が今後担い手となるような仕組みづくりを検討できるとよい。
- ・アートというと敷居が高いが、一般の写真でも見方や深掘りの仕方によってアートに変わっていくように思う。取組を通じて三鷹の魅力の再発見につながったと思われる。